

岡山西大寺試験地

公益財団法人日本植物調節剤研究協会
岡山西大寺試験地 主任
古市 清

はじめに

植調岡山西大寺試験地は岡山県南部の岡山平野の瀬戸内海沿岸部に位置する。平成29年4月に岡山研究センター西大寺試験地として開設し、令和6年4月1日から岡山西大寺試験地に改称した。

岡山県南部は年間を通して降雨が少なく、日照が多く温暖で災害も比較的少ない地域である。当地域で乾田直播栽培は古くから行われてきたが、麦作との作業競合や大雨などの天候不順により播種・除草等の計画的な作業がしにくくなったこと、雑草イネの問題などもあり、減少傾向となっている。

岡山西大寺試験地での乾田直播栽培について

当試験地で行っている乾田直播栽培の主な特徴は下記のとおりである。

耕耘) 荒起を含め、播種までに3回程度耕耘し、十分に碎土しておく。2年前から、碎土性や稲株等のすき込み能力の高い松山株式会社製のグランドロータリーを利用して耕耘を行っている(図-1)。

播種) 5月10日前後に乾籾を直接ほ場に播種する。株式会社ジョーニシ製の専用播種機をトラクターのロータリーの後部にセットして、耕耘しながらディスクで溝を切って乾籾を3~4cmの深さに落とし、覆土鎮圧する(図-2, 図-3)。播種量は約5~5.5kg/10a。

出芽) 通常年は、概ね2週間程度で出芽する。5月の岡山県南部の気象は乾燥することが多く、特に降雨が少ない年は出芽までに3週間以上かかる場合もある。また過去には、播種後降雨がなく出芽不良となった年も見られた。

乾田期の除草) 茎葉処理剤をノビエ出芽揃いと入水前の2回散布する。

入水) 播種後概ね40日に入水する。入水時のイネの葉令は4.5~5Lとなっている(図-4)。一般的に乾田直播栽培で問題となる漏水については、入水直後は減水深が大きいのが、数日で落ち着くので大きな問題はない。当試験地のほ場の土性が埴土で、かつ地下水位が高いためと考えられる。



図-1 耕耘作業



図-2 播種作業 1



図-3 播種作業 2



図-4 入水前の水稻



図-5 試験の実施状況



図-6 ノシバ畦畔

入水後の管理) 通常の移植栽培と同様の管理となる。

試験内容

- ・ 水稻適 2 試験
乾田直播栽培の乾田期処理と入水後処理の試験を実施している (図-5)。
- ・ 冬作適 2 試験
小麦で実施している。

グランドカバープランツ (ノシバ) の植栽

2018 年度に事務局からの勧めで、ノシバを水田畦畔に植栽した。4月にラウンドアップで雑草を枯らした水田畦畔に、5月に育苗したノシバを植え付けた。2年後にはほぼ全面被覆した。当地域の一般的な水田畦畔の除草方法は、草刈り機による刈払いよりも非選択除草剤などを年4～5回散布することが多い。全面被覆したノシバ畦畔では、アージラン液剤やグラスショット液剤などの除草剤を年1～2回散布すればノシバの畦畔は維持されるので、大幅な省力化となっている。現在は総延長約1kmのノシバ畦畔ができあがっている (図-6)。

周辺の見所

試験地から南で約500m進むと瀬戸内海の児島湾につきあたる。児島湾の堤防の護岸のすぐ沖に四つ手網漁の小屋が多く並んでいる。

四つ手網漁は夜間に海中に沈めた四つ手網の上部の水面をライトで照らし、明かりに寄ってきた魚やエビ、イカなどを沈めておいた網を一気に引き上げて捕る伝統的な漁法で、全国でも珍しい。初夏から秋にかけて、四つ手網小屋をグループで貸し切り、漁を楽しんだり、捕った魚などをその場で料理して食べたりするレジャーとして賑わっている。

また、西大寺観音院で毎年2月の夜に2本の神木の争奪を巡って行われる裸祭りが開催される。日本3大奇祭の一つとして有名である。

参考資料

水田における簡易なシバ畦畔の造成法 植調協会 HP 雑草防除・植物の生育調節に関する技術情報